



2026年3月31日

各位

会社名 株式会社 WOLVES HAND
代表者名 代表取締役 CEO 兼 COO 北井 正志
(コード：194A、東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 CFO 田中 哲生
(TEL. 06-6599-9106)

(開示事項の経過) フコキシナンチノールを活用したがん領域研究プロジェクトの 臨床試験の進捗に関するお知らせ

当社は、2025年12月10日付「フコキシナンチノールを活用した新たな化学療法の臨床研究開始のお知らせ」において、褐藻類由来成分フコキシナンチンの主要代謝物であるフコキシナンチノールを活用した新規がん領域研究プロジェクト開始をお知らせしておりましたが、まずは限定的な臨床研究を実施し、その有効性について臨床試験の進捗がありましたのでお知らせ致します。

【臨床試験の状況】

① 症例1：小型犬、雌、高齢、口腔内メラノーマ

当初 IR7683-Lipo および温熱療法を実施したが、腫瘍の増大が観察された。そのためフコキシナンチノールの血管内投与を開始。フコキシナンチノールを投与することにより、腫瘍の増大を抑制することができたと考える。

② 症例2：小型犬、雌、中齢、口腔内メラノーマ

外科切除を実施したが、1か月後再発。温熱療法およびサプリメントとして複合ミネラル（福寿）を処方。しかし腫瘍は増大傾向にあり、フコキシナンチノールの血管内投与を開始。フコキシナンチノールによる治療を開始後約2週間の細胞診により腫瘍の壊死を確認。

【研究プロジェクトの概要】

フコキシナンチノールは、昆布やワカメ、モズクなどの褐藻類や植物プランクトンに含まれるカロテノイド色素「フコキシナンチン」の主要代謝物です。フコキシナンチンそのままでは吸収率が低いことが知られていますが、体内でフコキシナンチノールへ変換されることで初めて吸収されるという特性があります。近年、この代謝物そのものに注目した研究が海外・国内ともに進んでおり、国立大学や国立がん研究センターからも関連論文が報告されています。

これまでの基礎研究では、炎症シグナルや細胞周期、細胞の生存機構に関連するさまざまな経路に対してフコキシナンチノールが作用する可能性が示唆されてきました。特に、NF- κ B や COX-2 をはじめとする炎症関連因子に関する報告、細胞外マトリクスからの剥離に伴う細胞挙動やフェロトーシスなどの細胞メカニズムへの関与、上皮間葉転換 (EMT) に関連する研究など、多角的な領域で関心が高まっています。また、IL-6 に関する研究報告もあり、腫瘍における細胞生存性や薬剤耐性にも関わるシグナルであることから、さらなる検証が求められています。

当社では、これらの学術的知見を踏まえ、フコキシナンチノールの生体作用の理解を深めるとともに、がん領域における応用可能性を科学的に検討する研究プロジェクトを立ち上げました。本プロジェクトは基礎的データの集積と安全性評価を丁寧に進めながら、将来的な臨床応用の可能性を探ることを目的としています。

フコキシナンチノールは多面的な作用が報告されている一方で、現在までの研究・実務上の経験では大き

な副作用が見られていないという点でも注目されています。

当社は、今回の臨床試験の結果を踏まえ、学術的根拠の蓄積と科学的評価を重ねながら、臨床試験を本格的に進め、革新的な治療開発につながる可能性を追求してまいります。

本件による当社業績への影響は軽微であります。今後、開示すべき事項が生じた場合には速やかに開示致します。

以上